

2025年度財務情報の公表について

財務理事 高橋 潤

日頃より学校法人東京神学大学を覚えて祈りと宝をもってお支えいただき感謝を申し上げます。2025年度、多くの寄付金によって支えられました。

毎年度、「私立学校法」及び「学校法人会計基準」に基づいて計算書類をホームページおよび学報において公表しています。本学の財政上の最も大きな特徴は寄付金比率の高さにあります。本学は日本で一番小さな大学ですが、全国の私学財政が寄付金比率5%のところ、本学は約70%です。対して学生納付金比率は全国の大学が70%強のところ、本学は約11%となっています。これは、全国の諸教会はじめ信仰者の祈りの賜物です。

特に2025年度は昨年に続きの遺贈等の献金が寄せられました。信仰の遺産を感謝して用いることができました。しかし、現実には毎年度、約3500万円の赤字体質から抜け出すことができないのが現状です。ご加禱ください。

現在大切なことは、伝道献身者です。学生数の推移は2021年度73名、2022年度73名、2023年度72名、2024年度75名、2025年度73名です。財政の健全化のためにも伝道献身者が与えられることです。受験生、入学生を迎え、教師養成が使命です。

資金収支計算書・活動区分資金収支計算書は、会計年度に対応するすべての資金収入と資金支出の内容を記載し、支払資金の増減を明らかにする書類です。事業活動収支計算書は、会計年度に対応する事業活動収入と事業活動支出の内容を記載し、その収支の均衡状態を明らかにします。

貸借対照表は会計年度末時点で保有するすべての資産、負債、純資産（基本金、繰越収支差額）を記載することで、前年度会計からの増減を表示し、学校法人の財政状態を表す書類です。純資産のうち基本金は、教育環境を整えるために継続的に保持する為に必要なものとして、事業活動収入から組み入れられた金額を示しています。

第1号基本金：校地、校舎、機器、備品、図書などの固定資産を自己資金で獲得したときに組み入れられる金額です。

第2号基本金：固定資産を将来獲得する計画があるときに計画的に組み入れていくものです。

第3号基本金：計画に基づいて奨学基金、教育研究基金などの資産が増加するときに組み入れます。

第4号基本金：学校法人の円滑な運営に必要な運転資金の金額で、ひと月分の運転資金に相当する金額を保持することになっています。

学校法人会計は利益追求を目的としているのではなく、充実した教育環境を整え、安定的な教育研究活動のために収支均衡を目的としています。

2025年度決算について公表し報告いたします。全国の教会・伝道所、関係学校、施設に伝道者、働き人を送り続けることが出来るように、引き続きお支えくださいますようお願いいたします。